

【高学年】

コロナで変化した親切

新型コロナウイルス感染症が流行し、感染予防のためには、人と人とのきよりを保つことが大切だと言われるようになりました。わたしは、ソーシャルディスタンスを意識するあまり、今まで当たり前のように行動してきたことを、ためらってしまうことが多くなりました。また、親切だと思っていたことが、相手にとって迷惑だったのではないかと思うできごともありました。

図書館に行ったときです。ベビーカーに乗った赤ちゃんが、おもちゃを落としてしまったのを見かけました。わたしがそれを拾ってわたしたところ、赤ちゃんのお母さんは、おどろいた顔でおもちゃをさっと受け取り、立ち去っていきました。

自分では親切のつもりでおもちゃを拾ったのですが、そのお母さんは、赤ちゃんがさわる物だから、他人にさわってほしくなかったのかもしれない。それどころか、あまり近づかないでほしいと思つたのかもしれない。

わたしは、さわらずに声をかけて教えるだけにすればよかつたのかな、と複雑な気持ちでした。何か行動を起こすときは、相手がどう感じるか、感染予防のことも考えなければならぬなんて、悲しいことです。

また、わたしは毎年夏休みになると、祖父の家にとまりにいき、畑の野菜の収穫を手伝うことにしています。しかし、今年はとまりにくいのをやめました。万が一、自分が無症状で感染していたら、うつしてしまうかもしれないし、高齢者は重症化しやすいと言われているからです。しかし、暑い中、一人で野菜を収穫するのは大変だろうと思います。畑仕事を手伝うことはできませんでしたが、感染予防のためにとまりにいかかつたのも、祖父に対する思いやりです。

このときも気持ちは複雑でしたが、祖父に会いたいという気持ちをおさえ、祖父の命を考えた行動ができた、無理やり納得するにしました。

それにしても、「新しい生活様式」によって、人との関わり方が難しくなり、なんだかさびしい気がします。そんな中で、親切の形も変わらざるを得ないのでしょいか。

他の人の荷物を持ってあげたり、落とし物を拾ってあげたりすることは、迷惑になってしまうかもしれません。しかし、あいさつをして地域を明るくしたり、校内のゴミを拾ったりすることは、こんな状況でも、また一人であっても、中学生のわたしにもできることだと思います。

コロナウイルスに感染しないように、日々の生活から手洗い・うがいの徹底、マスクを着用することを心がけ、周りの人にもうつさないようにすることも、思いやりの一つだと思います。自分を守ることばかり考えて、親切や思いやりの気持ちを失ってはならないと思います。

大変なときだからこそ、感謝の気持ちを忘れず、今できることを考えて生活していきたいと思えます。